平成１５年度福井県経済社会活性化戦略会議第９回会議概要

≪日　　時≫　平成１５年１２月７日（日）　１３：３０～１６：００
≪会　　場≫　県庁７階　特別会議室
≪出 席 者≫　西川　一誠　　福井県知事
上野　清治　　小浜海産物㈱代表取締役社長
坂本　光司　　福井県立大学地域経済研究所教授
新町　光示　　㈱ジャルパック代表取締役会長
竹内　幸雄　　農業経営者
前田　征利　　前田工繊㈱代表取締役社長
山下　利恵子　日本労働組合総連合会福井県連合会女性委員会委員長
山本　雅俊　　福井県副知事
吉野　浩行　　本田技研工業㈱取締役相談役

≪会議内容≫

【開会】

【知事あいさつ】

西川知事：　本日は。ご多忙の中、また日曜日の開催となったにもかかわらず、戦略会議にご出席いただき誠にありがとうございます。

私が４月に知事に就任してから約８か月がたとうとしていますが、この間、福井元気宣言に基づき、各施策の進行に全力で取り組んできました。

また、国に対しても、拉致問題の早期解決や新幹線、高速道路など、本県の県民にとって、また全国のネットワークの整備という意味で必要な事業の推進の要請、また、国民保護法制のあり方等、県民の生活に深く関わる問題につきまして、県民の皆様からご意見をいただきながら提言等を行ってきました。

その中にあって、この戦略会議は、福井に将来の夢や希望をもたらすために不可欠な産業活性化について、幅広い知識と見識をお持ちの各委員の方々からお知恵をお借りし、大胆な政策のアイデアを提言いただこうということで開催してきたところです。

今回で９回目を迎え、取りまとめていただく提言内容について最終の詰の議論を行う段階となりました。これまで、誠に多くの時間を割いていただきましたが、産業活性化は日本全体が抱えている問題であり、福井県の問題でもあります。福井県についていろいろなご意見をいただいたことにつきまして、心から感謝を申し上げます。

最近では、一部企業の景況感も改善の動きを見せているようですが、経済の活性化、本格的な構造的な回復については依然として課題だと思いますし、また模索しているところです。委員の皆様に熱心なご議論をいただいたのものを本日ご提言いただくということでございます。委員の皆様には、今後とも福井県に対してご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【議題】

議　　長：　では、戦略会議提言（案）について事務局から説明してください。また、修正意見があればご発言ください。

（提言内容の主な修正項目）

・「おわりに」の文章に民が主役である内容、民の自助努力が必要である内容を追加し、官主導ではないということを明確にすべき。
・「はばたけチャレンジ企業」の項目に一店一品運動の推進を追加する。
・「ビジネススクールの開設」に県立大学が県民の財産である、県立大学が地域に貢献するという内容を追加する。
・サービス産業という表現が用いられていないので、「はばたけチャレンジ企業」にサービス産業に対する積極的支援についての表現を追加する。
・「ふくいブランドの進化」について、県がリードしていくという表現を追加する。
・「はじめに」に提言を受けて「戦略構想を策定し」とあるが、構想としては提言があるので、「政策を取りまとめ」に修正する。
・「ビジット“ふくい”」中の「ホスピタリティの充実」にボランティアという表現を追加する。

議　　長：　他に修正意見はないようですので、これで提言をまとめます。提言の修正の間、長期間にわたって議論いただいた各委員に、提言を取りまとめての思いを発言していただこうと思います。

委　　員：　提言の内容は全般的に網羅して、よくまとまったと思います。戦略会議は推進母体ではなく提言をする機関ということで、提言を受けて県が具体的な施策を講じていくことが必要になります。しかし、県の担当者の方には施策をどういう方向に進めたいという思いがあって、戦略会議はそれを提言によって後押ししていくという位置付けになるのではないかと思います。是非、具体的な施策を早急に取りまとめて、戦略会議の提言を推進する力に利用していただきたいと思います。お世話になりありがとうございました。

委　　員：　今まで何回か行政が開催する会議の委員を務めさせていただきましたが、今回の会議は今までとは前々違う提言がまとめられたと思います。今までは事務局の方が作られた案の字句を修正するという方法でしたが、この会議では委員の個性が凝縮されて良いものが出来たと思いまし、私自身も大変勉強をさせていただきました。キーワードはニュー・パブリック・マネジメントで、顧客主義、成果主義、事後評価ということに尽きるのではいかと思います。官も民もこれからは成果主義でなければ生残っていけないということではないかと思います。大変勉強になりました、ありがとうございました。

委　　員：　先ほどの議論の中にもありましたが、提言を見ながら主役が誰なのか、提言の内容を実行するのが誰なのかということを考えてみると、官ではなく民です。私も教師をしていて、いろいろな提案を考えたりするのですが、これも実行するのは教師ではなく生徒で、生徒のためになるかというところが重要です。ですから、この提言を取りまとめて、この提言が民の活性化の一助になればと思います。女性の代表として参加させていただきましたが、この会議に参加させていただくことで私自身の自信になりました。ありがとうございました。

委　　員：　私は、この提言を取りまとめることで官の勉強をさせてもらいました。また、提言の「はじめに」のところに書いてありますが、「チャレンジ福井」という良いキャッチフレーズができたと思っています。提言のひとつひとつが福井県のトレンドになっていけばいいわけで、それが行政の腕の見せ所だと思います。もう一つは、戦略ということですから、この提言を受けて選択と集中をどのように、どういうタイミングで進めていくのかということが重要だと思います。そのあたりの行政の手腕というものがこれから出てくるのですが、戦略のやり方を実行に移せていくと福井県が良くなると思います。

委　　員：　経済界の方が毎日食べる米は安い海外産よりも安全な国産を選ぶというように言われたことは、農業者としては安心しましたが、農林水産業については効率だけでは割り切れない所もあると思います。今後も農林水産業のそうした面を考慮していくことが必要だと思います。

委　　員：　私も会議に参加させていただいて、産業界のたくさんの方々と接触することができて大変勉強になりました。先週は県内企業４０社を集めてバスで京都に行ってきましたが、自己負担金をとったにもかかわらず申込みが殺到して断るのに苦労しました。また、その前は自家用車を利用して２０数名で長野に行きました。私は、戦略会議での議論がいい意味で外に漏れて、県内企業を触発しているのではないかと思い、我々の議論により県内にも動きが出てきたという実感をヒシヒシと感じています。

委　　員：　私にとっては３つの点で今までとは違う提言になったと思います。ひとつは福井に対する提言となったこと。２つ目は、今までは世界、世界と言ってきたが、今回は地域ということで、エンジニアには焦点が合わせにくかったこと。３つ目は、今までは官から離れて仕事をしてきましたが、今回は官に対する提言をしたということです。
　はじめにも申し上げましたが、官に対する提言ではあっても、ポイントは民の力をいかに引き出していくかということで、民にモメンタムをつけてあげることだと思います。これが今後の課題となると思いますが、それには県のリーダーの方々の情熱で決まるのではないかと思います。官主導というやり方は古く、最先端のやり方は違うという気はしているのですが、最初何年間は官主導でモメンタムをつけて、その後は民が自力で発展していくようになることを実現していただきたい。それは、県 のリーダーの方々の情熱で決まると私は思います。

議　　長：　委員の皆さんのおかげで、ここまで来られたと思っています。また、私も何でも行政が悪いというのではなくて、企業が一番重要だと思います。企業と学が両輪になって、行政がその場を作っていただく接着剤のような役割を担っていただくというのが良いのではないかと思います。福井の産業のトップリーダーの方が主体となっていかなければいけないのではないかと思います。長い間、非力ながら議長を務めさせていただきましたが、どうもありがとうございました。

【閉会】